

演習 1 相談支援におけるケアマネジメントに必要な視点と技術

演習 1 日目 § 2 アセスメント

手順 (過程)	時間		小単元 (項目)	学習内容 内容	使用する教材・ツール	形態	役割分担		手順の詳細、指導・評価上の留意点					
	時間	所要					進行	担当						
手順1 導入	30	11:30～11:50	20	① 演習の説明 ② 共通講義のポイントを復習 ・アセスメントとは ・アセスメントの留意点 ③ 演習事例の配布	テキスト p.〇〇-p.〇〇 演習事例(概要、アセスメント)	全体 講義	藤川	-	◆手順 1) この後展開されるアセスメント演習の目的と方法について説明する。 2) 共通講義で取り扱った内容を概観的に復習し、演習でどのように展開されるのか説明する。 3) 事例のこいつまんだ概要と今回取り扱う場面設定、アセスメント様式について説明する。 ◆留意点 ※この演習は、自分が担当者になったと仮定してアセスメントを行い、グループワークは相談支援事業所で行われる所内のアセスメント検討会議(事例検討)に見立てて実施することを伝える。					
		11:50～12:00							10	④ 演習事例の読み込み	テキスト p.〇〇-p.〇〇 演習事例(概要、アセスメント)	個人 演習	(演習 講師)	◆手順 1) 全体進行者は、まず指示をせずに事例の読み込みをさせる。 ※演習中、演習講師は担当グループに対し、グループ演習についてはこの後説明をする旨前置きした上で、不明点があれば演習講師に質問するよう声をかける(質問には個別対応する)。
昼休憩			60											
手順2 展開1	70	13:00～13:10	10	① ワークシート1配布 ② ワーク1(アセスメントの視点)の説明	テキスト p.〇〇-p.〇〇 演習事例(概要、アセスメント) ワークシート1	全体 講義	藤川	-	◆手順 1) 相談支援の目的、基本的視点に基づいた読み込みができていたかを振り返らせる。 2) 相談支援の目的や資金的視点を意識しながら、事例を再度読み込み、自分の捉えた本人像を言語化するよう指示する。 ◆留意点 ※特に障害や疾病から入らず、生活者視点やストレス視点で本人を捉えるためにワークシート1を活用するよう指示する。					
		13:10～13:20							10	③ 読み込み、個人ワーク	個人 演習	(演習 講師)	◆手順 ※演習中、演習講師は担当グループに対し、不明点があれば演習講師に質問するよう声をかける(質問には個別対応する)。	
		13:20～13:35							15	④ グループワーク説明	全体 講義	-	◆手順 1) 演習全体を通じたグループワークの方法・グラドルールの説明を行う。 ◆留意点 ※演習全体を通じて、視点や解釈(捉えかた・考えかた)の多様性を意識させる(自分の傾向を知ることの重要性も伝える)。	
		13:35～13:50							15	⑤ アイスブレイク	G 演習	演習 講師	◆手順 1) 自己紹介(持ち時間2分とすると、Gメンバー6名+講師1名=14分要する。) 2) 役割分担(記録・発表)を決める。 ◆留意点 ※自己紹介は簡潔に氏名と所属+アイスブレイクの話題程度とする。 ※初日の進行は演習講師が行う(2日目は受講者に担ってもらうことを伝える)。 ※記録は演習講師が受講生をフォローする。	
		13:50～14:10							20	⑥ ワーク1 グループ共有	G 演習	演習 講師	◆手順 1) 自分の捉えた本人像を端的に一言でひとつ、メンバーに順番に発言させる。 2) ストレngthsと捉えたことを1つずつ端的に発言させる。 ◆留意点 ※グループメンバーの人となりを見極める。 ※徐々に自主的に、メンバー全員が発言できるよう促してゆく。 ※このワークでは質や根拠の手前の段階で、数が多く挙がることを目標とするといふ。	
		休憩								14:10～14:20	10			
手順3 展開2	165	14:20～14:40	20	① ワークシート2配布 ② ワーク2説明	テキスト p.〇〇-p.〇〇 演習事例(概要、アセスメント) ワークシート2	全体 講義	藤川	-	◆手順 1) アセスメントにおけるニーズ整理についておよび演習の目的、進行方法を説明する。 ◆留意点 ※本人の表出する意思や選好なのか、周囲の関係者の意向や解釈なのか、支援者の解釈なのかを明確にわけて重 視化させる。 ※支援方法(手立て)を考える前に、その根拠となる環境を含む本人理解(アセスメント)が重要であることを意識させる。 (「見立て」と「手立て」を明確に分けて言語化させる。) ※まずは本人の意思からスタートすること、相談支援は意思決定支援でもあることを意識させる。 (特に、最善の利益のみに焦点をあてるのではなく、表出された願望や本人の選好に焦点を当てることを意識させる。) ※そのためには、客観的な状況把握だけでなく、共感的理解が重要である。					
		14:40～15:10							30	③ 個人ワーク	個人 演習	(演習 講師)	◆手順 1) 個人でワークシート1に基づき演習させる。	
		15:10～15:20							10		休憩			
		15:20～17:00							100	③ グループワーク	G 演習	藤川 演習 講師	◆手順 1) 個人作業をもとにグループ討議を行い、チームとしての本人像をワークシート1にまとめる。 ・本人の表出している願望を共有する。 ・それについての支援者(受講者)の解釈をそれぞれに発言し、その根拠となることは何かを含め言語化させる。 ・本人の希望・ゴールの達成にむけて支援が必要と思うことを討議し、グループで共有(合意)する。 ・グループで共有(合意)した本人像を簡潔に他者に伝えられるよう要約する。 ◆留意点 ※受講生の主体的な参加を促し、水平の関係で肯定的な雰囲気醸成につとめる。 (そのためにファシリテーション技術を活用する。) ※演習講師も発言の否定はしないよう心がけるが、演習の目的や方法からずれる行為や発言については修正する。 ※ワーク1ではまずは発言することを目指したが、ワーク2では加えて根拠をもって発言することを意識させる。 ※定められた時間内で検討が終了するよう進行管理を行う。	
		17:00～17:10							10		休憩			
		17:10～17:25							15	④ 全体共有	全体 演習	藤川 (演習 講師)	◆手順 1) 各グループでの討議の概要を会場全体で共有する(3分×5グループ)。 ・特に議論となった点、本人像の要約、支援課題を簡潔に発表する。	
まとめ	5	17:25～17:30	5	まとめ ① 本日のまとめ		全体 講義	藤川							